

令和元年度第3回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和元年6月19日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター 副センター長)
大西 秀典(岐阜大学医学部附属病院 新生児集中治療部 准教授)
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長))
石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)
オブザーバー: 加藤 いづみ(岐阜市保健所地域保健課 感染症対策係長)
事務局 : 居波 由紀子(保健医療課 主幹兼感染症対策係長)
中澤 千怜(保健医療課 技師)
田村 直彦(保健環境研究所 疫学情報部長)
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)
酢谷 奈津(保健環境研究所 専門研究員)

4 議 題 (進行:大西委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題、情報提供すべき事項について
- (3) 情報提供(月番委員専門分野から)
- (4) 前回の検討結果を受けた実績等
- (5) その他

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題、情報提供すべき事項について】

○梅毒について

(事務局・保健環境研究所)

・一般向けに啓発が必要と考えているが、どのような情報をどの程度示して啓発するのが効果的か伺いたい。

(委員からの意見)

- ・平成29年12月15日付「大人のためのぎふ感染症かわら版」をベースにデータを更新し、岐阜県でも

患者が多いこと、最近では患者の男女比は同程度であり若い女性の増加が著しいことなど強調してはどうか。

- ・保健所の無料抗体検査の情報はもっと伝えるべきである。
- ・若年層への啓発方法としては、わかりやすい内容の啓発資料を、手に取りやすいところに置いて見てもらうことが効果的と考える。

○百日咳について

(事務局・保健環境研究所)

・患者は学童期に多く注意喚起が必要と考えるが、定期接種の年齢でない学童期に対してワクチン接種を積極的に呼びかけるのは難しいと考えており、どのような情報提供・注意喚起が望ましいかご意見を伺いたい。

(委員からの意見)

- ・学童期に罹る人が多いということ、予防接種を受けていても罹ることがあるという事実を伝えることにも意味はあるのではないか。
- ・ただし、新生児の感染を予防するために、妊婦周囲の感染予防は重要である。
- ・医療関係者向けには、患者の動向と併せて、正確な検査診断に関する情報を提供し、共有すべきである。

○伝染性紅斑について

(事務局・保健環境研究所)

・4月に「ぎふ感染症かわら版」で注意喚起を行ったところであるが、今後の動向を見ながらタイミングをみて、妊婦の感染予防に重点を置いた啓発を行いたい。

(委員からの意見)

- ・インフルエンザやノロウイルスなどの流行が収まった夏場にも、手洗いなどの一般的な感染予防が重要であることを伝える必要はあると考える。

【情報提供（月番委員専門分野から）】

(石山委員・大西委員)

- ・梅毒、重症複合免疫不全症について資料のとおり情報提供。

【前月の検討結果を受けた実績等】

○風しん

(事務局・保健環境研究所)

・一般向けの情報提供として、「ぎふ感染症かわら版」にて風しんの発生状況や予防接種に関する情報を取りまとめ6月14日に発行した。

【保健医療課から情報提供】

(事務局・保健医療課)

- ・厚生労働省からの感染症関連通知、お知らせ等情報提供。